



長崎大学
NAGASAKI UNIVERSITY

2021年春本格始動!

PLANETARY HEALTH



教育

「プラネタリーヘルス(地球の健康)」を全学共通のテーマに掲げる長崎大学。使命である教育と研究の両面においてこのテーマをどのように具現化していくかとしているのでしょうか。プラネタリーヘルスへの取り組みが本格化する2021年4月からの教養教育カリキュラムや研究方針について、統括する担当理事に聞きました。

〈企画・制作 / 長崎新聞社メディアビジネス局クロスメディア編集部〉

Q 2021年4月からの新しい教育方針を教えてください。

教養教育科目に「地球の健康」をテーマにした「プラネタリーヘルス科目」を盛り込み、学生全員が履修する必修科目にします。プラネタリーヘルスの必要性や、地球規模の課題解決に向けたアカデミックな視点を養成し、「プラネタリーヘルスマインド」を身に付けた人材を社会に輩出していきたいと考えています。

Q 学生にどのような学びを期待していますか?

課題を俯瞰的に捉え、複眼的な視点でアプローチする考え方を養ってほしいと思います。長崎大学には10学部があります。プラネタリーヘルスには、さまざまな学部が持つ専門的な知識や技術が関わっており、課題解決に対してそれらの融合や分野連携の必要性を理解し、新しい切り口を創造する力をつけてほしいですね。一方で、課題を軸にして、自分の専攻分野がどのように寄与できるのかということに常に問い続けながら、専門分野の学びを深めてもらいたいと思います。

Q 具体的にはどのような講義名で、どのような講師が担当しますか?

「プラネタリーヘルス入門」といった科目名で開講し、講師については、まず学長に担当の先陣を切ってもらいます。次いで、各部署より選出した教員に講師を務めてもらいます。長崎大学が取り組んでいる代表的な研究を紹介し、学生自身に考えてもらう内容になりそうですが、学問分野が異なっても興味を持って内容がわかりやすく講義してもらいます。

2021年4月、教養教育カリキュラムに「プラネタリーヘルス科目」が登場!

Q 講義の方式について教えてください。

異なる分野で活躍する複数の講師が、それぞれの視点でグローバルな課題への取り組みやその重要性について講義します。全学生がまんべんなく受講できるように、いつでも聴講できるオンライン授業を10回程度予定しています。

Q 大学教育にどのような変化を期待していますか?

最初は全学部共通の入門科目ですが、将来的には専門教育においても学部や学域にまたがったよりコアな内容の必修科目の導入や、さらには大学院レベルでの教育・研究プログラムへの展開が生まれるかもしれません。学生も教員も、地球の健康にどのように、どうやって貢献するかというテーマに対して、常に「問い」が求められます。広い視点と深い専門性を身に付け、グローバルに活躍できるためのキャリア教育も促進されるはずです。



理事 森口勇氏

もりぐちいさむ
1963年、長崎市生まれ。九州大工学部卒。長崎大工学研究科副研究科長などを経て、同大総合生産科学域長。2020年10月から教学担当理事。

答えを探すな。創るんだ

研究

Q どのような研究に取り組んでいきますか?

具体的には①未知の疾患との闘い②海洋環境③土壌④地球と人類の安全保障⑤グリーンテクノロジーという5つの柱をベースに据えています。

Q 学部横断的に研究者が連携している例について教えてください。

創薬研究の分野で水産系と歯学部が連携した新しい研究コアが生まれています。新しい薬を開発するために、水産系が長年蓄積してきた海洋生物のサンプルから有効な物質を見つけ出す取り組みが進んでいます。ほかにも、五島灘の海を活用した洋上風力発電なども、脱炭素社会を見据えた水産、工学、環境科学部が連携した取り組みです。

学部、専門領域を越えた研究連携がスタート

Q 異分野の研究者が交流する仕組みはあるのですか?

本学に在籍する約1200人の研究者全員がアクセスできる「共創プラットフォーム」というプラットフォームが整備されています。研究成果を発信したり、逆に研究上、別の視点からのアプローチを求めて支援を呼び掛けることもできる情報共有システムです。ほかにも専門が異なる研究者を集めた「プラネタリーヘルスセミナー」を開催します。さまざまなテーマを設定し、議論しながら新たな結び付きを生み出す狙いです。また、米ハーバード大に事務局がある「プラネタリーヘルス」に寄与する国際的な大学ネットワークに加入し、世界中の大学と共同研究ができるよう情報発信も行っています。

Q 研究者にどのような変化を求めますか?

「プラネタリーヘルス」というのは非常にシンプルかつ、すべての研究に通じる普遍的なテーマです。そのテーマに関わらない研究者はいないと言っても過言ではありません。プラネタリーヘルスマインドを備えた新しい研究コミュニティを学生とともに創り、文系や理系という枠組みにとらわれない創造的でグローバルな研究が活発化していくことを期待します。



理事 永安武氏

ながやすたけし
1962年、佐世保市生まれ。長崎大医学部卒。専門は胸部外科。同大医学部長などを経て2019年から研究・国際担当理事。



連載「プラネタリーヘルスのために」のこれまでの掲載記事はこちら